

## アレクセイ・アンドレーヴィッチ・ロージェ教授の逝去を悼む

ドクチャーエフ土壤研究所  
ソ連土壤学会  
「土壤学」誌編集局

《Почвоведение №4 1980  
Некрологи стр. 169~170  
Алексей Андреевич Роде》

原田竹治・遠藤健治郎共訳

1979年12月20日、ソ連のすぐれた学者、農学博士ソ連国家賞受賞者、ドクチャーエフ金賞受賞者、ロシア共和国功労科学者、アレクセイ・アンドレーヴィッチ・ロージェ教授は逝去した。

A.A.ロージェは1896年4月21日レニングラードに生まれ、1923年にペトログラード農業専門学校を卒業した。学生時代から早くも林業専門学校の土壤学研究室でカー・カー・ゲドローイツ教授の指導下で研究生生活に入った。ゲドローイツはこの若い研究者ロージェの科学観の形成に大きな影響を与えた。ゲドローイツの研究室でロージェは1928年末まで勉強し、土壤の化学と物理化学の分野において深い知識をえ、土壤の化学分析および物理化学的分析をマスターした。ゲドローイツはロージェに精密な実験への愛着心を植えつけた。学生時代からロージェはソ連科学アカデミーカザフスタン探検隊の一員としてムゴジャールイ連丘の学術探検、国民経済最高会議北方学術産業探検隊の白海魚類学隊に参加した。また、1926年からはレニングラード州、その後ノヴゴロド州の土壤調査に参加した。

1927年にソ連科学アカデミーの一翼としてドクチャーエフ土壤研究所が創設され、ここでロージェ若かったがすでに学術的積み重ねをもった学者として一は研究を始めている。土壤学とドクチャーエフ土壤研究所の歴史に輝かしい数ページを加えたロージェの、その後の全生涯と一定の目的を持った学術的全行路は、ドクチャーエフ土壤研究所と結びついている。ロージェは1935年からポドゾール性土壤研究室を、1938年から1948年まで土壤化学研究室を、そしてまた1951年から1974年まで、自分で創設したソ連唯一の土壤水文学研究室を指導している。ポドゾール性土と沼沢性ポドゾール性土に関する、野外および室内の詳細な調査研究は、周到なモノグラフ「ポドゾール性土の生成過程」の発刊をもって完了された。

この力作に対してロージェは1937年に農学博士の学位を受け、1939年に教授の称号を得た。豊富な実際の資料およびその資料の深い解析と整然とした論理的説明で、このモノグラフは今日すでに不朽の古典となっている。

ロージェの学術活動全体の特徴は、ソ連国民経済との緊密な結合である。1933年、ボルガ河の水力発電所網建設計画に関連し、ロージェはソ連科学アカデミー大ボルガ・カムスク探検隊の土壤班を指導した。ロージェの組織能力と方法論的に正しいアプローチにより、土壤班は短期間に、ボルガ貯水池が将来満水したときにその周辺地域の土壤被に及ぼす影響を予測することができた。この探検隊の仕事で始めて、土壤水文学的研究に相互に補足し合う野外調査方法と常設的研究方法との組み合わせが利用された。

ロージェは現代における（進行中の）土壤生成過程に多大の注意を払った。中央森林特別保護区（カリーニンスク州）クルルスイ市近郊にある中央チェルノジョーム特別保護区のロージェが設立した土壤常設研究地では、第二次世界大戦前に早くも土壤の成因および現代の土壤生成過程、まず第一に、水分レジームと水分バランスの総合的な常設的研究が実施された。原則として、土壤の研究は植物地理学の研究、林学の研究、動物学の研究と緊密な関係をもって総合的に遂行された。

第二次大戦中の苦難な時期には、ロージェはドクチャーエフ土壤研究所の所長代理として、タンケント市に疎開した所員たちの仕事を組織している。ロージェはウズベキスタンのボガール農業（乾地農業）を拡張するために、ボガールの灰色土の水文学的レジームを研究する仕事を指導している。

ロージェの持つ輝かしい組織能力、旺盛な精力と多面的な学問的関心が顕著に発揮されたのは、第二次大戦後の時代である。ロージェの活動は基本的につぎの四方面

に展開された。1) 土壌の成因と地力に関する諸問題を解明する基礎としての、現代土壌生成過程の、総合的な常設的土壌研究、2) 土壌水の諸性質とカテゴリー、水と土壌の諸性質についての実験的研究、3) 土壌水文学に関する諸問題、なかんずく、水分レジーム型学の理論的展開、4) 土壌水文学に関する既存資料の理論的総括とこの問題に関する世界の文献の批判的概括。

ロージェはジョーレン・ボドゾール帯における土壌過程の常設的研究、中央ロシア高地の厚層チェルノゾームの成因と水分レジームの研究を指導している。農地保護林の育成に関連して、ヨーロッパロシア南東部のチェルノゾームに、白ロシア常置施設を設立し、指導している。ロージェはまたチチンスク探検において、土壌の水分レジームの常設研究を組織している。

ロージェが手塩に掛けていとしんだ機関は、1950年にカスピ海沿岸の半砂漠に設立されたソ連科学アカデミアヌィベクスキー常置施設であった。その施設では、自然物の生産性を高め、文化的な景観を造る基礎としての土壌被と植物被を、生態学的に深く総合的に研究する、というロージェの思想が最高度に具現された。ロージェの指導下で多年にわたり深く総合的に実施された土壌過程と生物学的過程の研究に基づいて、半砂漠地域を文化的な農林的景観に改造するシステムが開発されている。

野外の常設的研究と研究室の実験的研究による膨大な資料の総括、および土壌水文学の諸問題に関する深い理論的解明の結果は、輝かしい一連のモノグラフ「土壌水分」、「水分レジームとそのタイプ」、「土壌水分学原論」(全二巻)、「土壌水分レジーム研究法」その他であった。

ロージェはソ連土壌水文学派を創設してこれを指導した。深遠な学識、広範な創造的関心、非凡な手腕および深い分析力を持ったロージェは、土壌学の他の諸分野にもまた大きく貢献した。土壌成因論、土壌化学、土壌研究法、土壌学史の分野におけるロージェの理論的研究は広く一般に承認されている。ロージェの発表した研究業績は250点以上にのぼり、そのうち11点はモノグラフである。

ロージェの労作はわがソ連および海外に広範に知られ

ている。そのモノグラフは一連の国々で英語、ドイツ、ルーマニア語、ポーランド語、中国語および日本語に翻訳、出版され、世界の土壌学会に広く知れわたっている。土壌学部門における大きな功績により、ロージェ教授はドクチャーエフ金賞を受賞した最初の一人となった。ロージェはロシア共和国功労科学者の称号を授与された。全二巻のモノグラフ「土壌水分学原論」により、1972年にソ連国家賞を受賞した。ロージェは国際土壌学会の名誉会員に選出され、ベルリン(ドイツ民主共和国)にあるフンボルト大学の名誉博士に挙げられた。ソ連政府はロージェにレーニン勲章その他数々のメダルを授与した。

ロージェは教育者としての才能に富んでいた。土壌学の国際的な大会、集会、シンポジウムにおける土壌学の諸問題に関するロージェの講演と報告には大勢の聴衆が参集した。約10年間、ロージェはブリヤンスク林業技術大学の講座を主宰し、数ヶ国語に翻訳された教科書を刊行した。ロージェの指導を受けて博士、修士の資格審査にたくさんの人々がパスした。

ロージェは学術組織上の仕事と社会的活動に多くの精神的、肉体的エネルギーと時間をささげた。長年の間、ロージェはソ連土壌学会の評議会と常任委員会の一員であり、ソ連土壌学会土壌物理部門長であり、一連の学術評議会の一員であり、土壌学詳解辞典(訳注:菅野一郎訳「ソ連土壌学解説辞典」たたら書房1979)刊行委員長であり、土壌構造研究法に関する国際的指針書の編集者の一人であり、土壌物理部門の術語委員会の一員であった。

学問と人生における高い原則性、堅忍不拔さ、深遠な学識、自然と人生に対する多様な愛情、自己と自己を取り巻く周囲の人々に対する厳しい態度、人生行路でめぐり会う各人の運命に対する深い配慮により、ロージェは自分と一緒に働いたり、自分とたまたま出会ったすべての人々から、深い尊敬の念と大きな愛情を受けた。

ソ連土壌学の損失は重大である。魅力に富んだ人、大学者アレクセイ・アンドレーヴィッチ・ロージェに対する気持のよい思い出は永遠に残るであろう。ロージェの内容の深遠な名著、輝やかな創造的思想は常にわれわれの科学(土壌学)のために奉仕することであろう。

[1980. 8. 11. 受稿]